

＜ポイント版＞ ぎふ経済レポート（令和7年11月分）

【製造業】

○9月の鉱工業生産指数は前月比▲2.1%となった。ヒアリングでは、大手自動車メーカーは好調だが、あまり実感はなく前年同月比で同水準が続いているとの声や受注出荷、在庫状況も計画通りだが、今年度末で大手自動車メーカーの人気車種の部品生産が打ち切りとなり、新しいモデルの受注もないため、今後の減収減益は避けられないとの声が聞かれる。

○地場産業は、9月の鉱工業生産指数は繊維工業、窯業・土石、食料品で上昇した。ヒアリングでは、インバウンド需要の高まりと、多少高額でも良質な商品を購入する人が増えたため、売上は一昨年度から好調であり、受注を受けても在庫がない状態が続いているとの声が聞かれる一方で、賃金上昇や原材料の高騰のペースに追いついておらず利益率はあまり改善していないとの声が聞かれた。

【設備投資】

○設備投資は、10月の全国の金属工作機械受注額は、前年同月比16.9%増加となった。ヒアリングでは、以前使用していた機械の老朽化に伴い、合理化のため機械の更新を行うとの声や自動検査機や省人化のための設備を導入予定との声が聞かれた。

【個人消費】

○個人消費は、10月の販売額は、全体で前年同月比2.6%増加となった。ヒアリングでは、シネコンの好調継続に加えて、気温低下に伴い重衣料や季節家電等の季節商材の売上が伸長との声が聞かれる一方で、価格を上げた商品が大きく売上を落としているので、11月より大きく値上げがあった原材料もあるが、価格の転嫁は控えているとの声が聞かれた。

【観光】

○宿泊者数は前年同月と比較しプラスとなるなど、回復傾向にあり、観光客数、宿泊者数ともにコロナ前と同程度まで戻ってきている。宿泊施設からのヒアリングでは、人手不足に苦慮しているとの声が多くあり、外国人人材を活用する施設もあった。

【資金繰り】

○10月の制度融資実績は金額で15ヶ月ぶりに増加となった。利上げ局面である意識は事業者にも浸透しているため、金利を気にしての資金需要の増減はないとの声が聞かれた。

【雇用】

○10月の有効求人倍率は1.41倍と前月比▲0.05ポイントとなった。ヒアリングでは、採用面については、昨年度より新規採用も確保できているが、オペレーター業務を行える男性社員を確保したいため、今後も中途採用を含め取り組んでいくとの声が聞かれた。待遇面については、最低賃金の引き上げは加工代金の増加に繋がるため、より経営が苦しくなるとの声や賃金引き上げのペースが早く、上昇ペースにまだまだ業績が追い付いていないので負担になっているとの声が聞かれた。

【景気動向】

9月の景気動向指数（一致指数）は前月比▲2.2ポイント、10月の中小企業の景況感は同▲5.0ポイントとなった。